

岡山理科大 学生意識調査

「政治に関心」過去最低の41%



アンケート結果について話し合う学生と木村邦彦教授(一番奥)
— 北区の岡山理科大で

衆院解散・総選挙がささやかれる不安定な政局を受けて、岡山理科大生が大学生の政治意識を探るアンケートを実施した。「政治への関心がある」と答えた学生は、03年の調査開始以来最低の41%だった一方で、約6割が「景気回復」を強く望んだ。同大総合情報学部の木村邦彦教授(66)は「政治全体への関心は薄れているが、自分の生活に直結する問題には関心がある。政治をまったく無視しているわけではないようだ」と分析する。

【坂根真理】

木村ゼミの3年生9人が6月に約1週間かけて、岡山市内にある岡山大▽岡山商科大▽山陽学園大▽就美大▽ノートルダム清心女子大▽岡山理科大—の6大学の学生864人に面接でアンケートを実施した。今回で8回目。政治に「関心がある」と答えたのは41%。権交代があった09年、期待感から53%が関心を持っていただけに、ゼミ生の麻生利佳さん(20)は「現在の政治に不満を持ち、あきれている学生が増えたので」と推測した。支持政党について、民主21%、自民22%と張り合う結果となった。

誰に総理大臣になってほしいかを聞くと、小泉純一郎・元首相、橋下徹・大阪市長を支持する声が多かった。「政治腕力があると思うから」という意見が多く、学生は強いリーダーシップを求めていることが分かった。今後、政治に期待するものとして、58%の学生が「景気回復」を挙げた。以下「雇用問題」16%、「外交問題」10%と続いた。ゼミ生の鈴木遥香さん(20)は「就職難から抜け出したいという思いは強いけど、景気回復を期待しても首相が次々と交代する。関心を持って、何も変わらないし、関心は低くなる一方だと思う」と話した。

スコープ2012 scope2012